

2026年 6 月












アジア・パシフィック経済マンスリー

株式会社 第一ライフ資産運用経済研究所

経済調査部 主席エコノミスト

阿原 健一郎 (TEL: 050-5470-4868)

実体経済サマリー

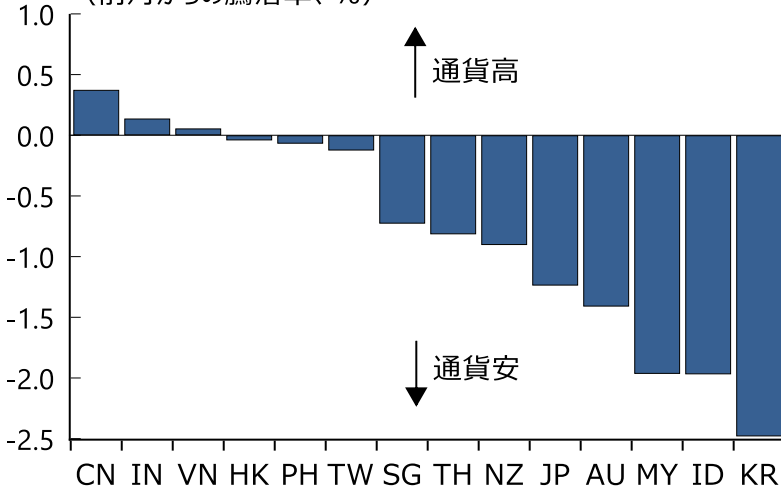
		実質GDP（前年比、前期比年率、%）					CPI（前年比、%）			失業率（%）			
		2024	2025	2025 Q2	2025 Q3	2025 Q4	2026 Q1	2025 Q3	2025 Q4	2026 Q1	2025 Q3	2025 Q4	2026 Q1
	中国	5.0	5.0	4.9	4.1	4.9	5.3	-0.2	0.6	0.8	5.2	5.1	5.3
	インド	7.2	7.5	7.5	9.1	7.5	7.8	1.7	0.6	3.1	6.5	7.0	6.7
	韓国	2.2	1.1	2.6	5.6	-0.4	7.5	2.0	2.4	2.1	2.7	2.9	2.9
	台湾	5.3	8.8	16.3	6.7	28.7	6.9	1.5	1.3	1.2	3.3	3.4	3.3
	香港	2.6	3.6	3.3	3.8	4.3	12.2	1.1	1.3	1.6	3.8	3.8	3.8
	シンガポール	5.3	5.0	7.3	7.8	5.2	3.9	0.6	1.2	1.5	2.0	2.0	2.0
	インドネシア	5.0	5.1	5.4	5.2	5.6	5.6	2.4	2.8	3.9	4.9	4.7	4.7
	タイ	2.9	2.4	2.2	-1.1	7.6	2.7	-0.7	-0.5	-0.5	0.7	0.7	0.9
	フィリピン	5.7	4.4	3.7	1.4	2.4	3.8	1.4	1.7	2.8	4.3	4.6	5.3
	マレーシア	5.2	5.2	7.7	8.3	5.6	0.0	1.3	1.4	1.6	3.0	2.9	2.9
	ベトナム	7.0	8.0	32.1	31.9	30.4	26.6	3.3	3.1	3.1	2.2	2.2	2.2
	オーストラリア	1.1	2.0	3.9	1.5	3.5	1.1	3.2	3.6	4.1	4.3	4.3	4.2
	ニュージーランド	-0.3	0.5	-2.6	3.6	0.3		3.0	3.1	3.1	5.2	5.3	5.7

(注) ヒートマップは各国各指標の直近5年のZ-score（平均からの乖離）を計算、Z-scoreが+3以上を最も濃い赤色（上振れ）、▲3以下を最も濃い青色（下振れ）で表示。CPIと失業率は四半期の平均値。

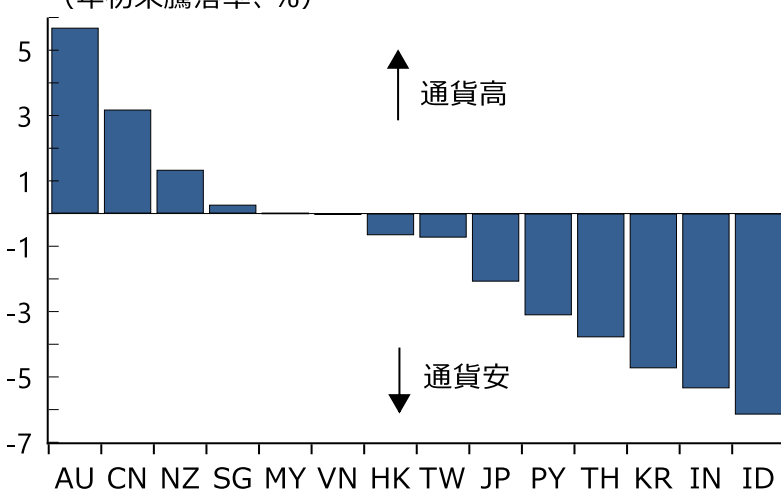
(出所) Macrobondより第一ライフ資産運用経済研究所作成

為替

(前月からの騰落率、%)

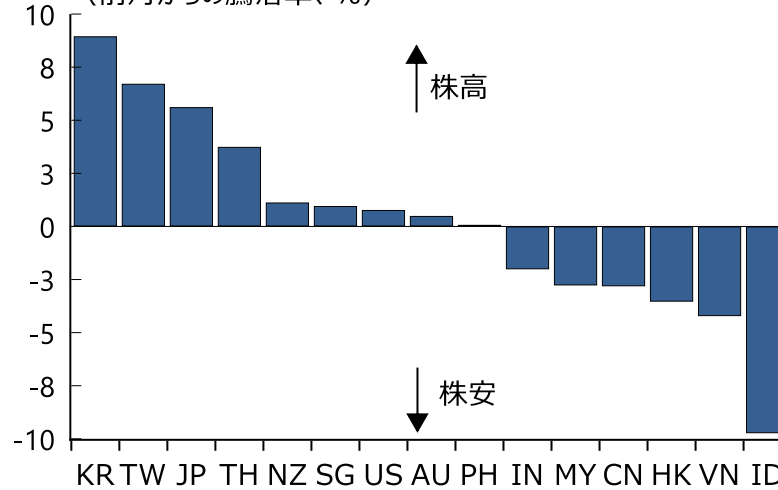


(年初来騰落率、%)

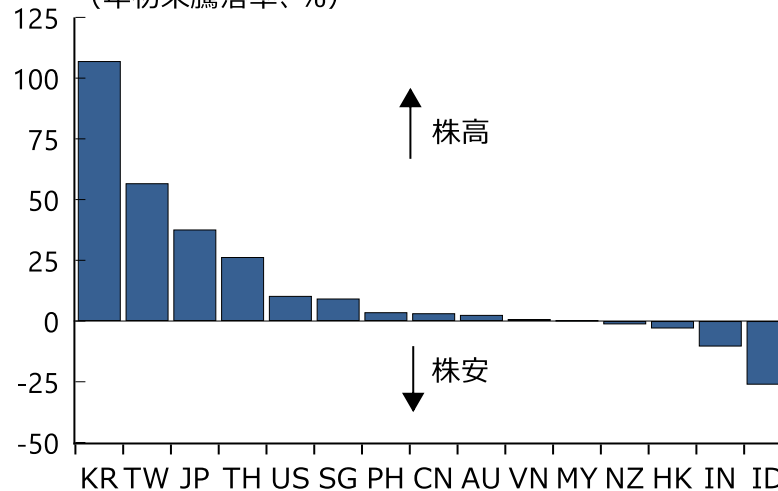


株価

(前月からの騰落率、%)

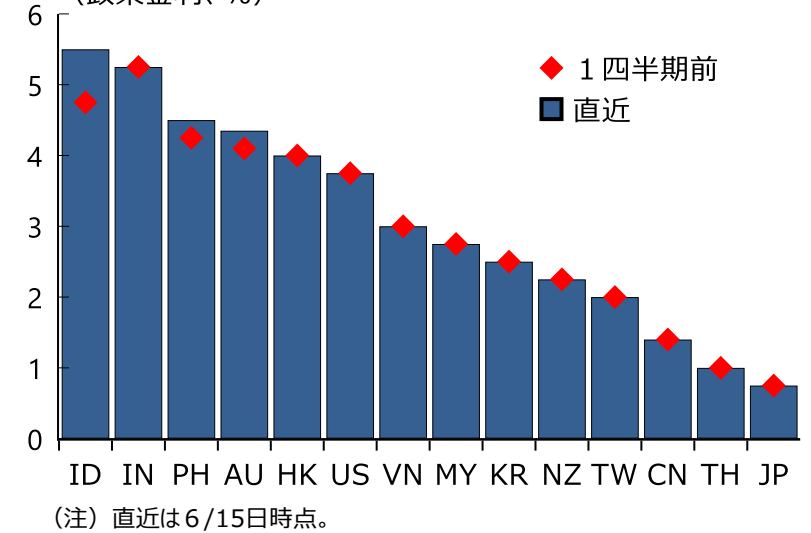


(年初来騰落率、%)



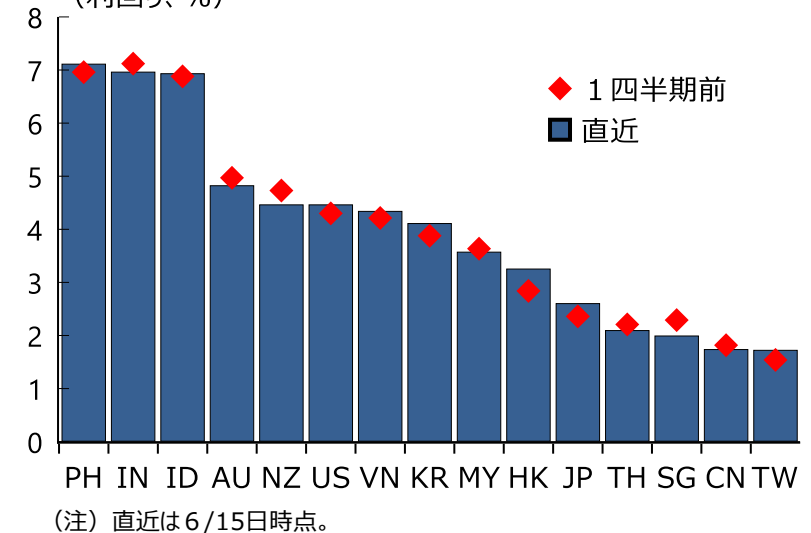
政策金利

(政策金利、%)



10年国債利回り

(利回り、%)



(注) 前月からの騰落率は26年5月平均と6/15日までの6月平均との比較、年初来騰落率は2025年終値と6/15日終値との比較。
為替は対米ドルの名目為替レート、株価は各国の主要株価指数。各国コードは、AU=オーストラリア、CN=中国、HK=香港、IN=インド、ID=インドネシア、JP=日本、KR=韓国、MY=マレーシア、NZ=ニュージーランド、PH=フィリピン、SG=シンガポール、TW=台湾、TH=タイ、US=米国、VN=ベトナム。

(出所) Macrobondより第一ライフ資産運用経済研究所作成



中国

■ 製造業PMIは拡大ペースが鈍化

5月のRatingDog製造業PMIは51.8と、前月（52.2）から拡大ペースが鈍化。新規受注指数の拡大ペースが鈍化し、ヘッドラインを押し下げた。また、地政学リスクの高まりを背景に、新規輸出受注指数は縮小に転じた。

■ インフレ率は横ばいで推移

5月の総合CPIは前年比+1.2%と、前月（同+1.2%）から横ばいで推移。中東紛争の長期化に伴うエネルギー価格の上昇やサプライチェーンの混乱により、輸送費の伸びが加速した一方、豚肉や生鮮果物の価格下落により食品価格は2か月連続で下落した。

■ 消費は低位で推移

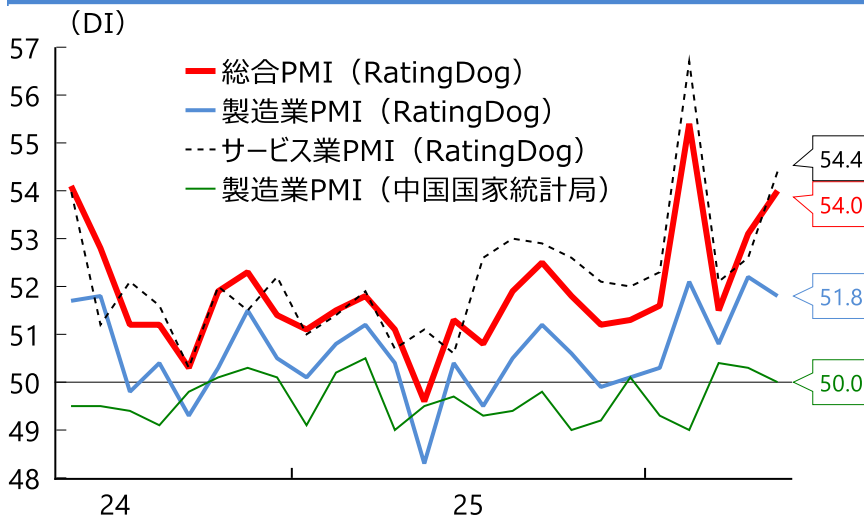
4月の小売売上高は前年比+0.2%と、1-3月（同+1.7%）から増加幅が縮小。4月の不動産販売面積も同▲10.6%と、依然として減少が続いており、不動産市況の低迷が長期化している。

■ 輸出は増加幅が拡大

5月の輸出は前年比+19.4%と、前月（同+14.1%）から増加幅が拡大。世界的なAI投資の拡大を背景に、半導体などのハイテク製品や機械電気製品の出荷が増加した。仕向け地別では、前年の裏要因もあり、米国向けが同+35.4%と増加。

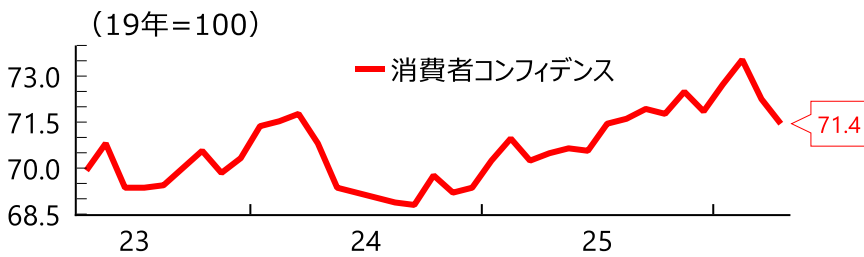
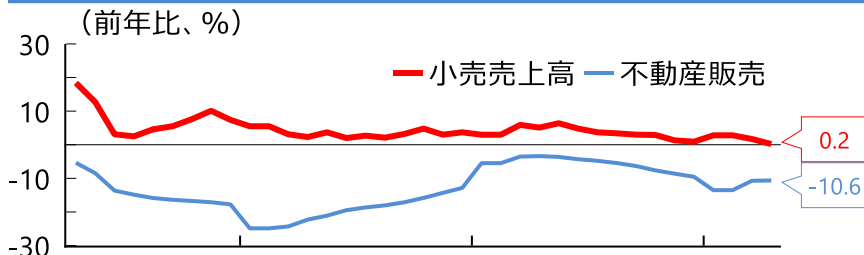
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



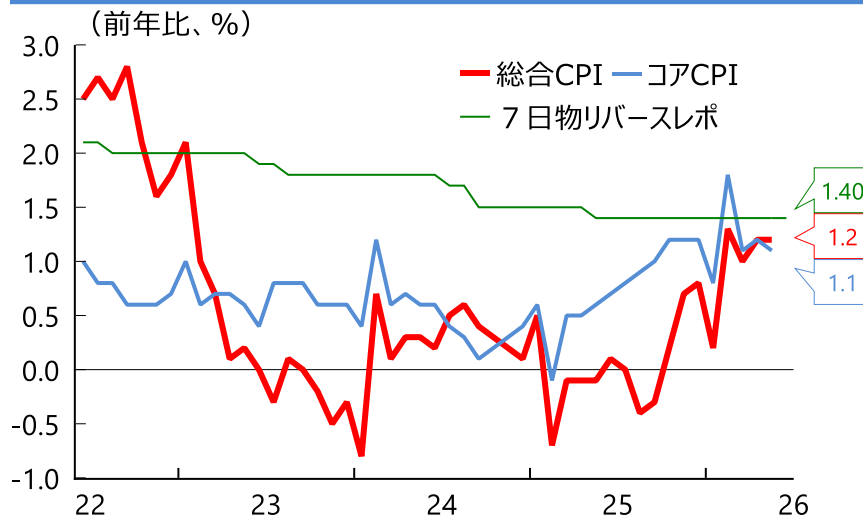
（注）直近は5月。

消費



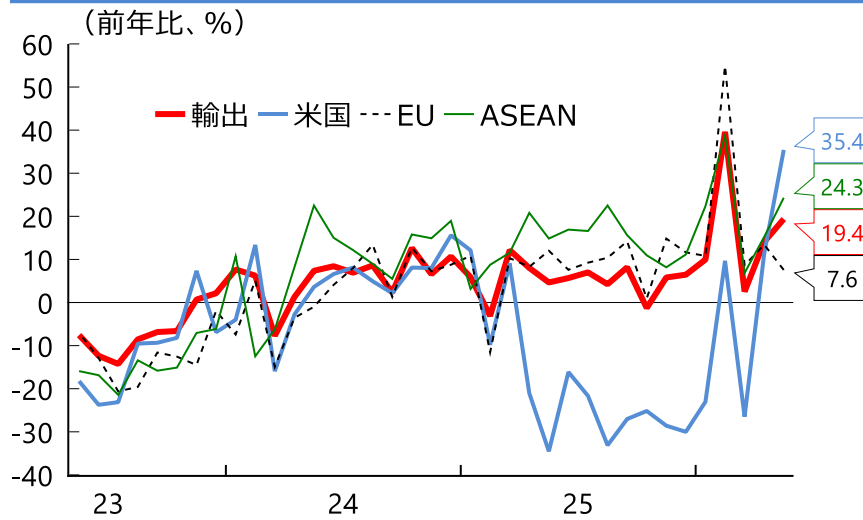
（注）直近は4月。不動産販売は面積ベース。

インフレ率と主要政策金利



（注）直近は7日物リバースレポが6/15日、その他が5月。

輸出



（注）直近は5月（速報値）。米ドル建ての輸出額。



インド

■ PMIは引き続き拡大

5月の総合PMIは59.3と、前月(58.2)に続き拡大。製造業・サービス業ともに新規受注指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

■ RBIは政策金利を据え置き

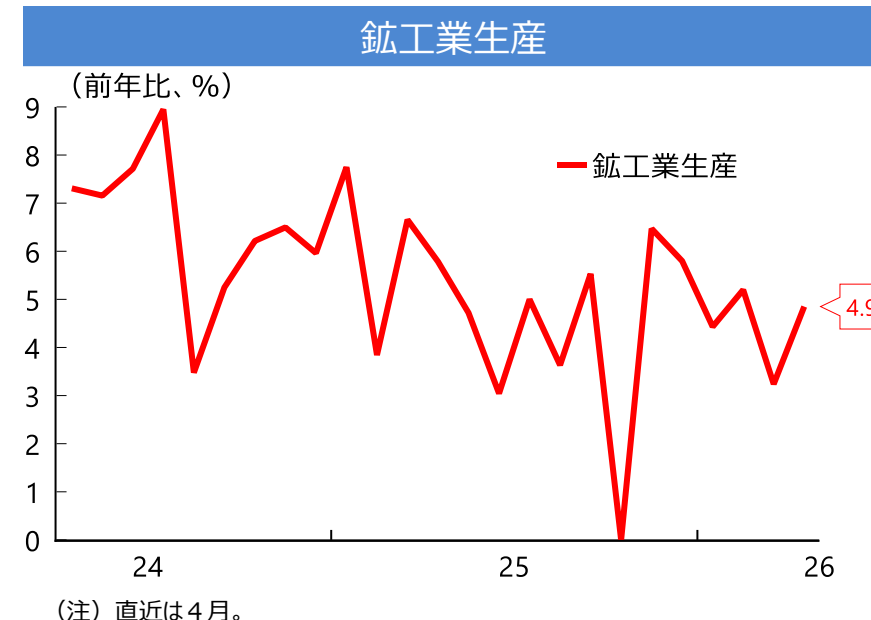
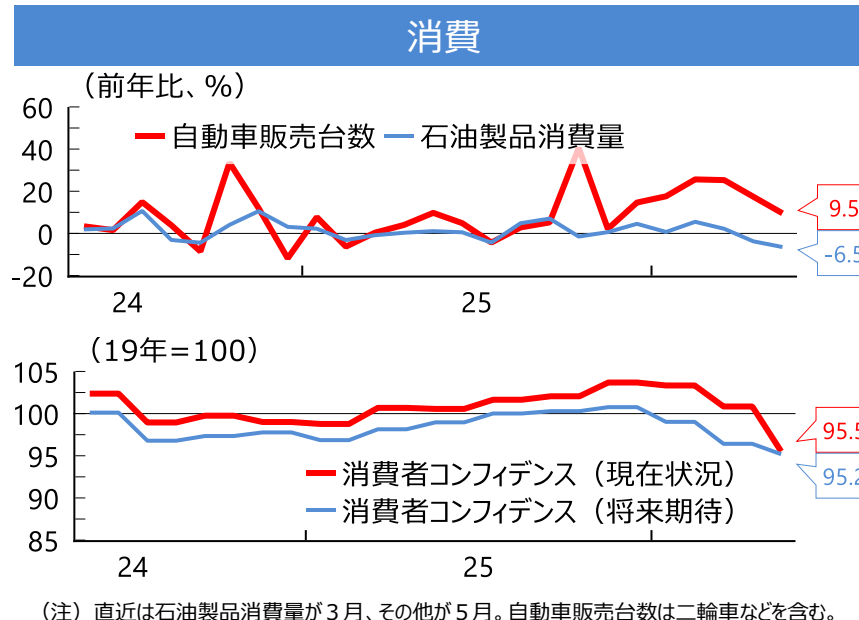
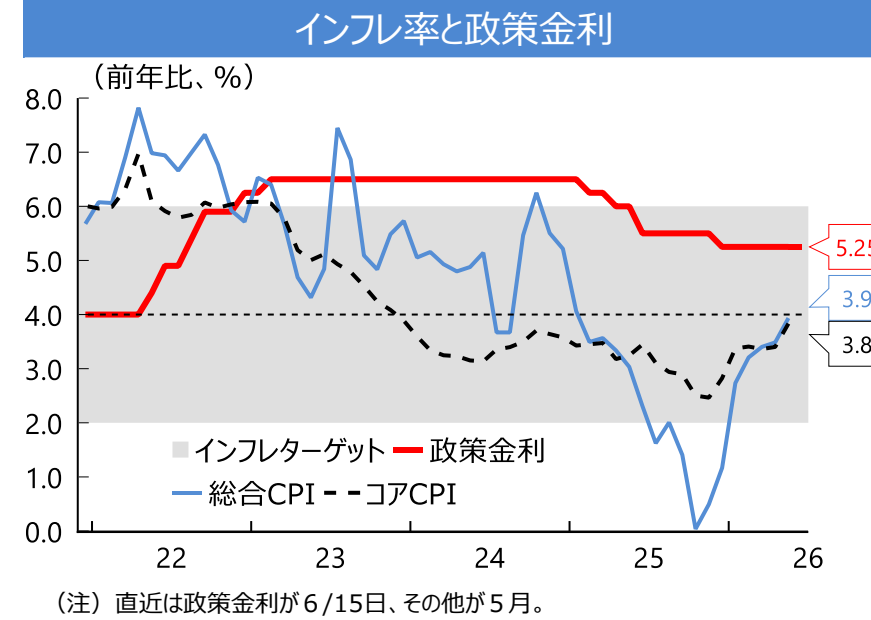
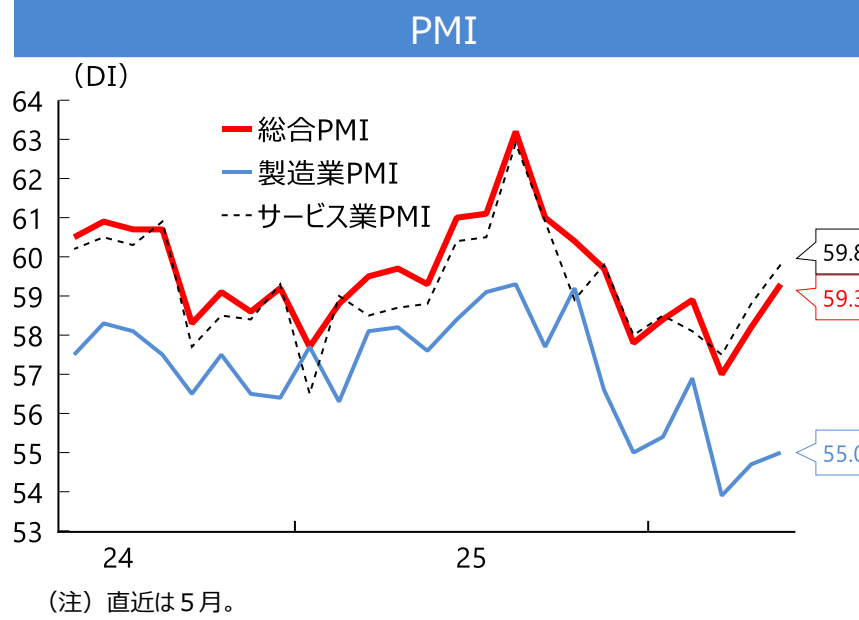
5月の総合CPIは前年比+3.9%と、前月(同+3.5%)から加速。食料価格が引き続き上昇するもと、輸送費の伸びが拡大し、総合CPIを押し上げた。6月5日、インド準備銀行(RBI)は政策金利の据え置きを決定(5.25%)。据え置きは市場予想通り。声明文では、「インフレ率上昇のリスクは高まっているものの、より明確な見通しが得られるまで待つのが賢明」とした。

■ 自動車販売は引き続き増加

5月の自動車販売台数は前年比+9.5%と、前月(同+17.4%)に続き増加。地方市場を中心に、乗用車の販売台数が増加。

■ 鉱工業生産は引き続き増加

4月の鉱工業生産は前年比+4.9%と、前月(同+3.2%)から増加幅が拡大。製造業や再生可能エネルギーの増加が牽引した。





韓国

■ PMIは拡大ペースが加速

5月の製造業PMIは54.8と、前月(53.6)から拡大ペースが加速。新規受注指数や生産指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

■ BOKは政策金利を据え置き

5月の総合CPIは前年比+3.1%と、前月(同+2.6%)に続き加速。中東紛争による燃料価格の上昇に加え、通貨安が輸入物価を押し上げている。

5月28日、韓国銀行は政策金利の据え置きを決定(2.50%)。据え置きは市場予想通り。声明文では、「中東紛争の動向と経済成長・インフレへの影響を評価しつつ、政策金利を現状維持することが適切である」とした。先行きについては、総裁会見で「国内経済の改善傾向、金融安定を評価した上で、政策金利引き上げの時期とペースを決定する」とタカ派姿勢を示した。

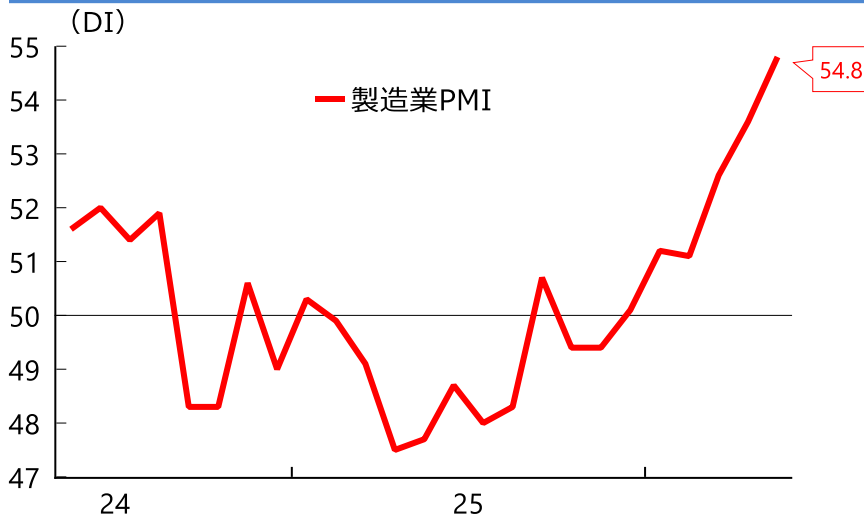
■ 消費は前月から減少

4月の小売売上高は前期比▲3.6%と、前月(同+1.9%)から減少に転じた。

■ 輸出は過去最高額を記録

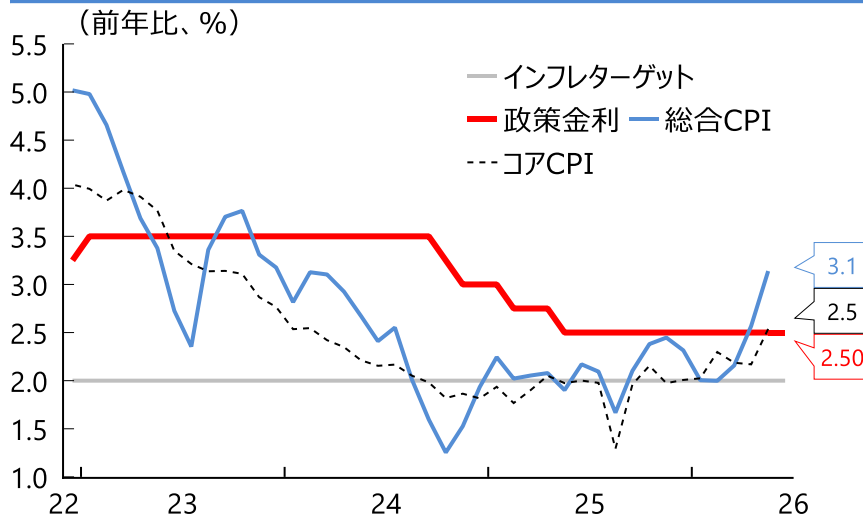
5月の輸出は前年比+53.4%と引き続き増加し、単月では過去最高額を更新。世界的なAIデータセンター投資の急増により、高帯域幅メモリなどの半導体輸出が同+169.4%と引き続き増加した。

PMI



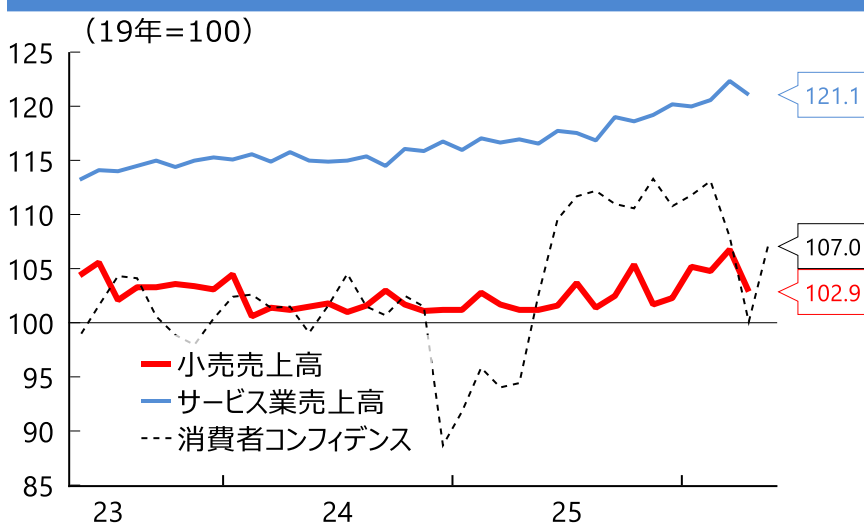
(注) 直近は5月。

インフレ率と政策金利



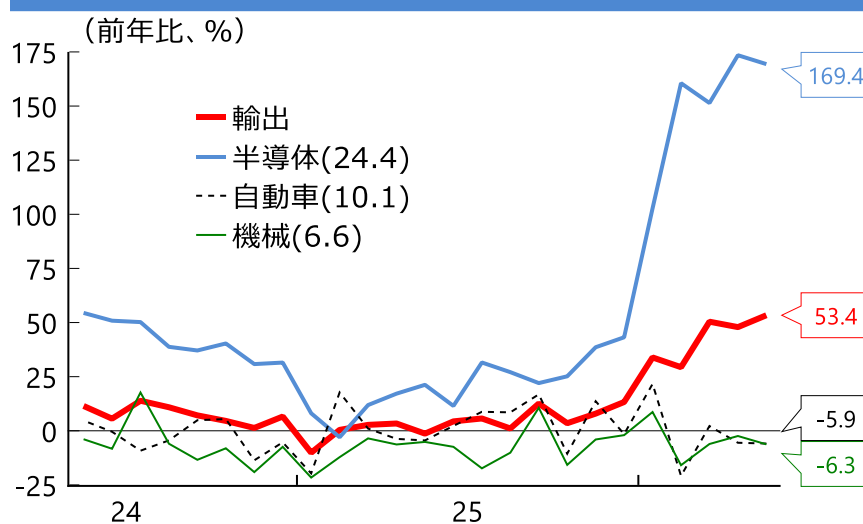
(注) 直近は政策金利が6/15日、その他が5月。

消費



(注) 直近は消費者コンフィデンスが5月、その他が4月。

輸出



(注) 直近は5月。米ドル建ての輸出額。()内は25年輸出額に占める割合。

■ PMIは拡大ペースが加速

5月の製造業PMIは61.4と、前月（60.3）から拡大ペースが加速。エレクトロニクス部門は受注が増加し、68.3と引き続き拡大、製造業全体を支えている。

■ インフレ率は加速

5月の総合CPIは前年比+2.2%と、前月（同+1.7%）から加速。中東情勢の悪化によるエネルギー価格上昇により、輸送費がプラス寄与に転じ、総合CPIを押し上げた。

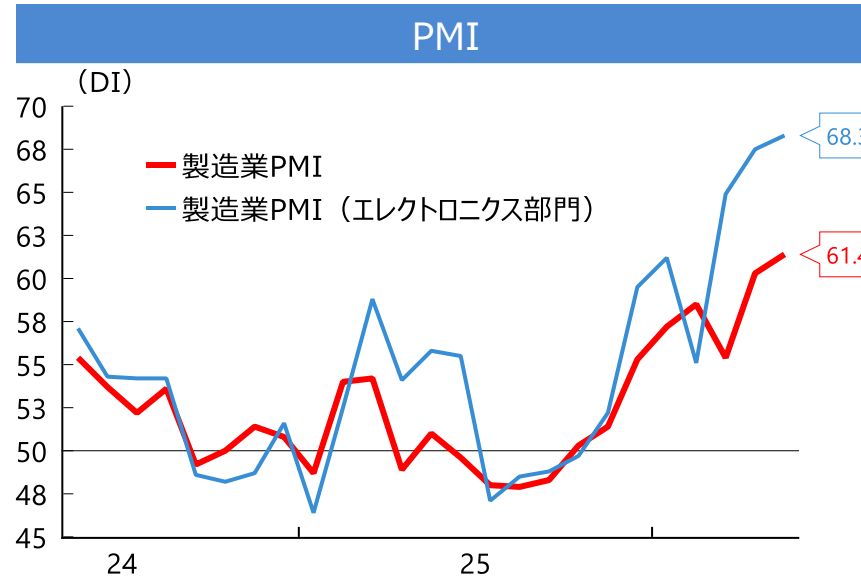
■ 消費は引き続き増加

4月の実質小売売上高は前年比+4.0%と、前月（同+3.2%）に続き増加。百貨店や衣料品などの国内消費が好調だったほか、eコマースも堅調な拡大を維持した。

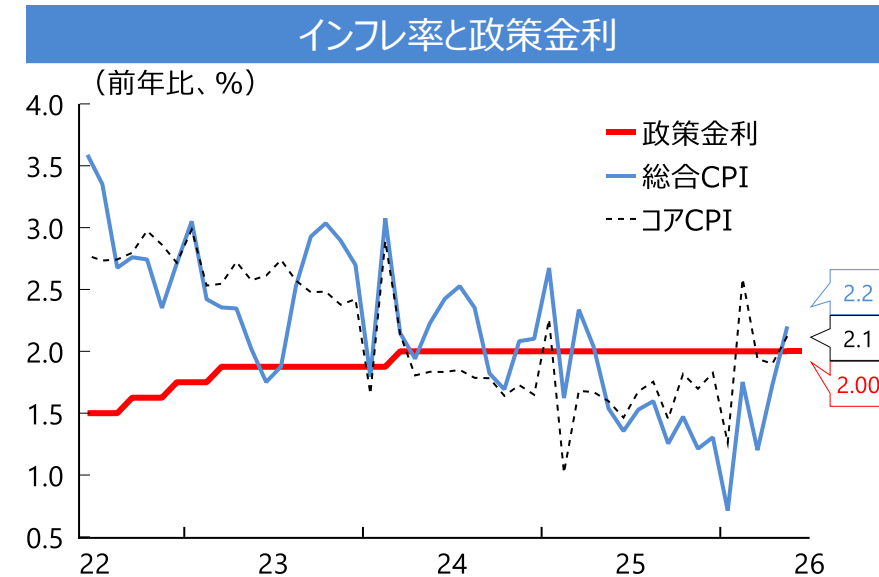
■ 輸出受注は引き続き増加

4月の輸出受注は前年比+48.1%と、前月（同+65.9%）から増加幅が縮小したものの、引き続き増加。AI向け先端半導体に対する海外からの継続的な需要が、受注のベースを強固に支えている。

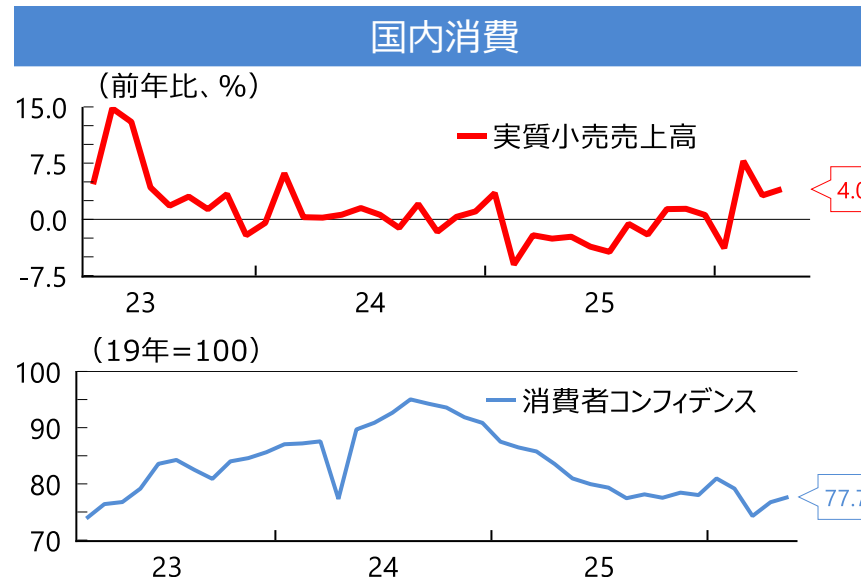
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成



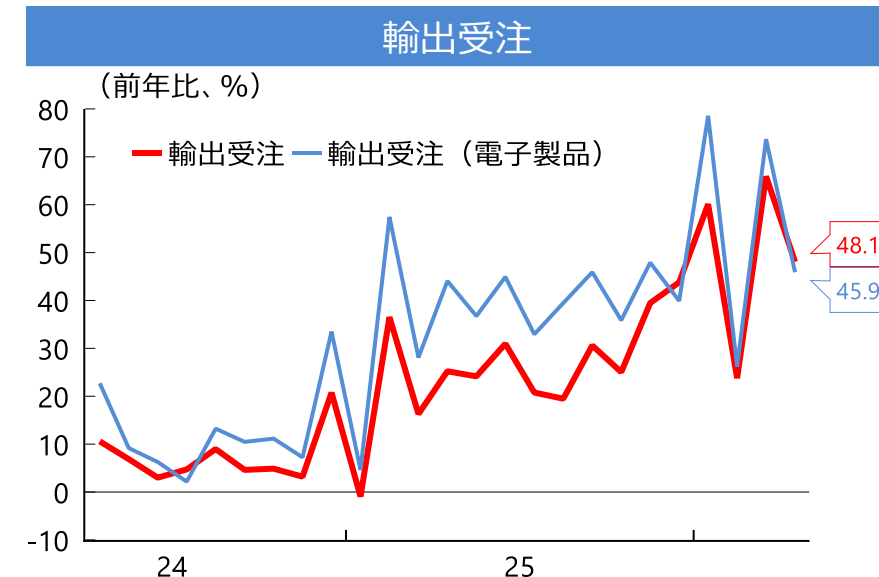
（注）直近は5月。国家発展委員会の公表値。



（注）直近は政策金利が6/15日、その他が5月。



（注）直近は実質小売売上高が4月、消費者コンフィデンスが5月。



（注）直近は4月。米ドル建ての輸出受注額。

■ PMIは拡大に転じる

5月の総合PMIは50.4と、前月(48.6)から拡大に転じた。新規受注指数が改善し、ヘッドラインを押し上げた。

■ インフレ率は横ばいで推移

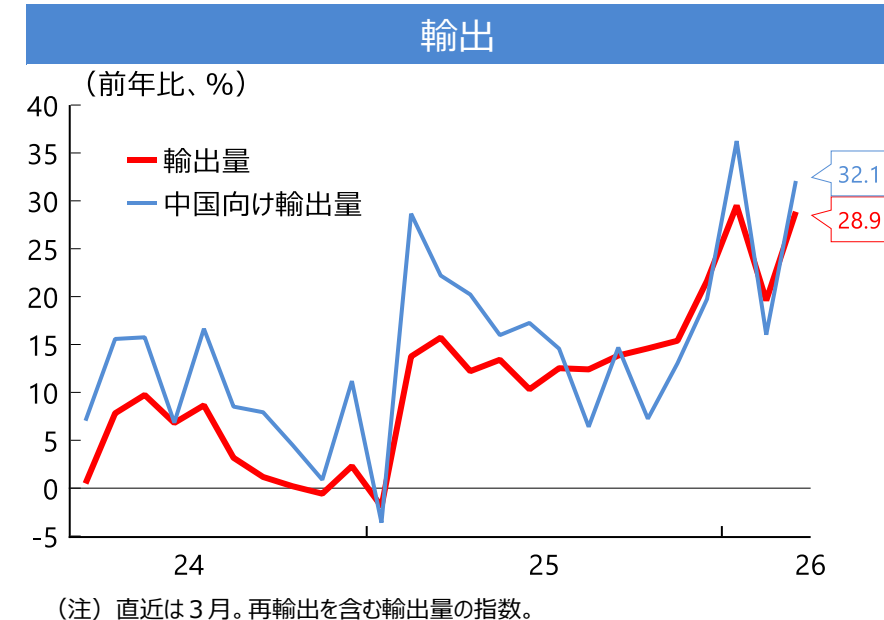
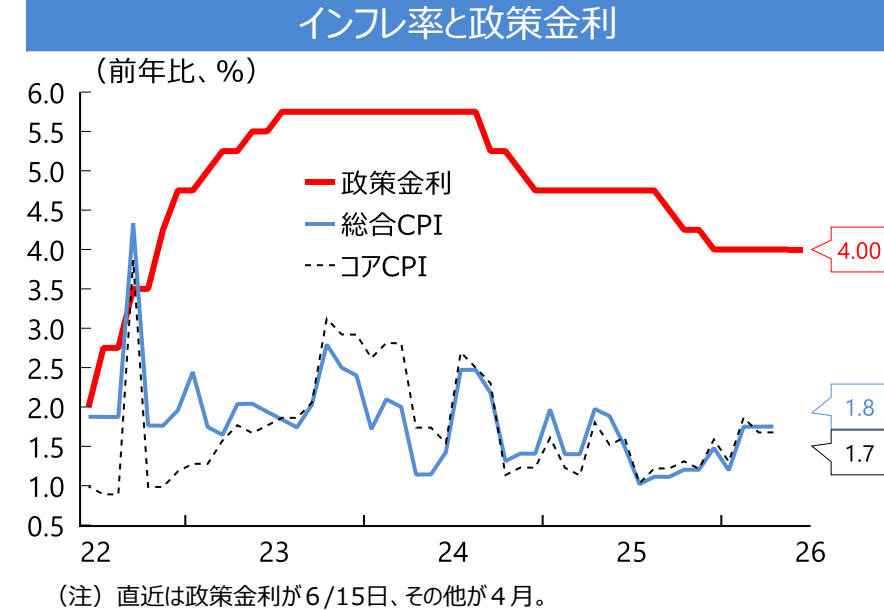
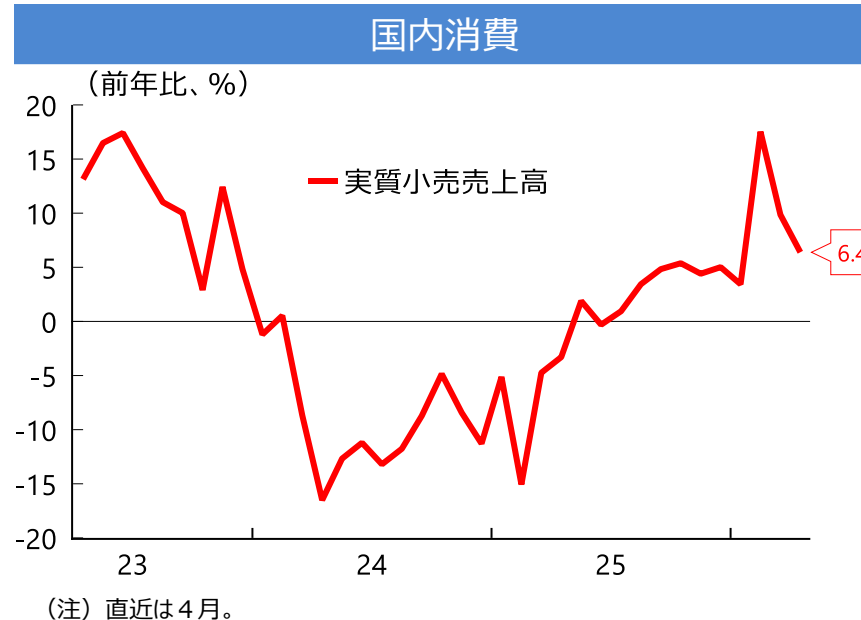
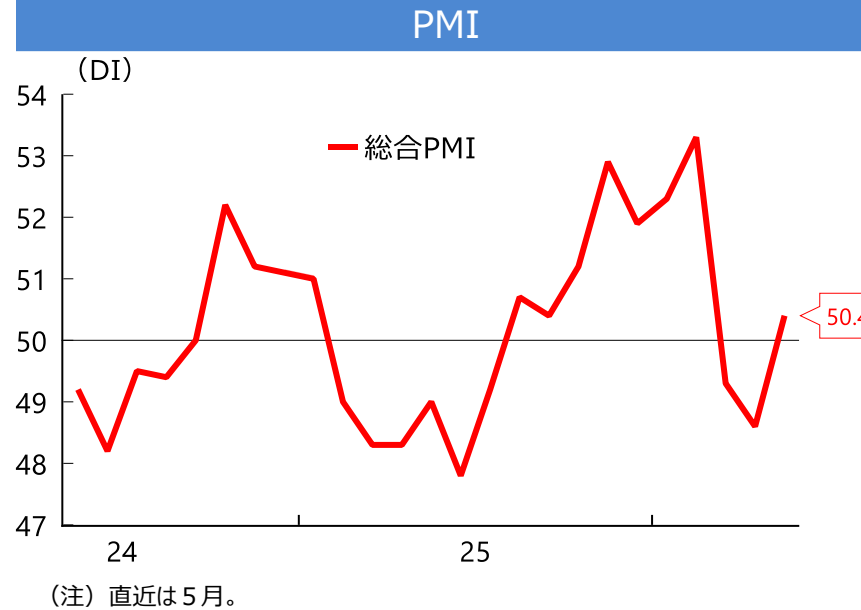
4月の総合CPIは前年比+1.8%と、前月(同+1.7%)からわずかに加速。各種サービス価格や輸送費が引き続き上昇したものの、衣類や耐久財の価格が下落し、総合CPIの上昇を抑えた。

■ 消費は引き続き増加

4月の実質小売売上高は前年比+6.4%と、前月(同+9.9%)に引き続き増加。インバウンド観光客の増加やオンライン消費が堅調に推移し、売上を支えた。

■ 輸出は引き続き増加

3月の輸出量は前年比+28.9%と、前月(同+19.6%)に引き続き増加。AI関連の先端電子部品に対する世界的な需要を追い風に、本土やASEAN、米国、EU向けの出荷が増加した。





シンガポール

■ PMIは引き続き拡大

5月の製造業PMIは51.0と、前月(50.7)に続き拡大。エレクトロニクス部門が51.9と、前月(51.7)から拡大ペースが加速した。

■ 政策為替レートは足もと増価

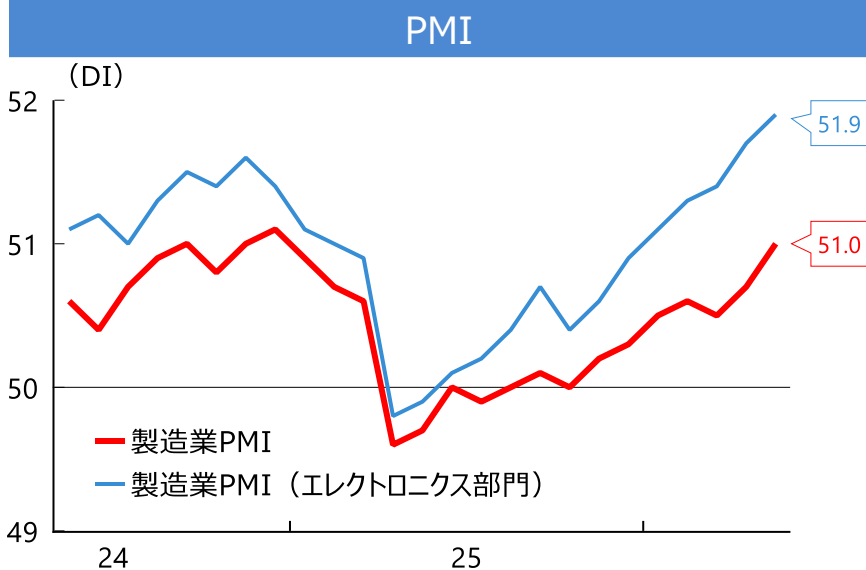
直近(4月14日)の金融政策では、シンガポール通貨金融庁(MAS)は、政策為替レートS\$NEERの誘導目標の傾斜を「若干引き上げる」と発表し、金融引き締めへ転じた。政策為替レートは足もとで141.48と増価している。

■ 消費は引き続き増加

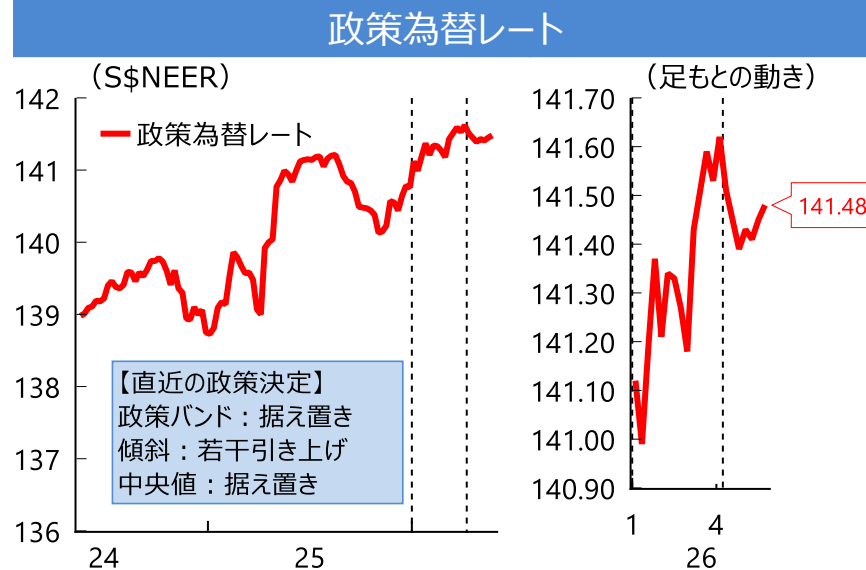
4月の実質小売売上高は前年比+5.4%と、前月(同+4.9%)に続き増加。5月の自動車登録台数は同+1.7%と、税の優遇措置等から前年に登録台数が増加していた裏要因もあり、前月(同+16.4%)から増加幅は縮小。

■ 非石油輸出が増加

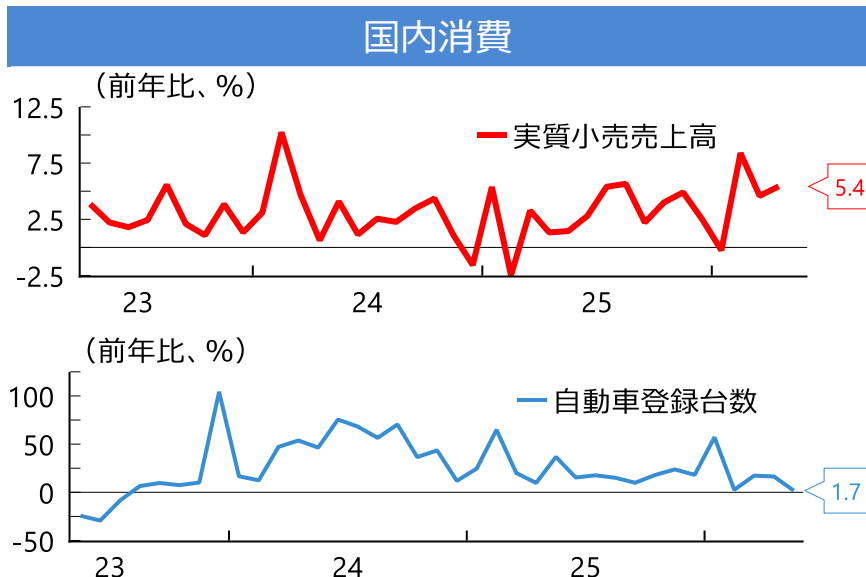
4月の輸出は前年比+9.1%と、前月(同▲2.2%)から増加に転じた。AI関連の先端電子部品に対する世界的な需要により、電子製品を中心として非石油輸出量が増加、輸出を牽引した。



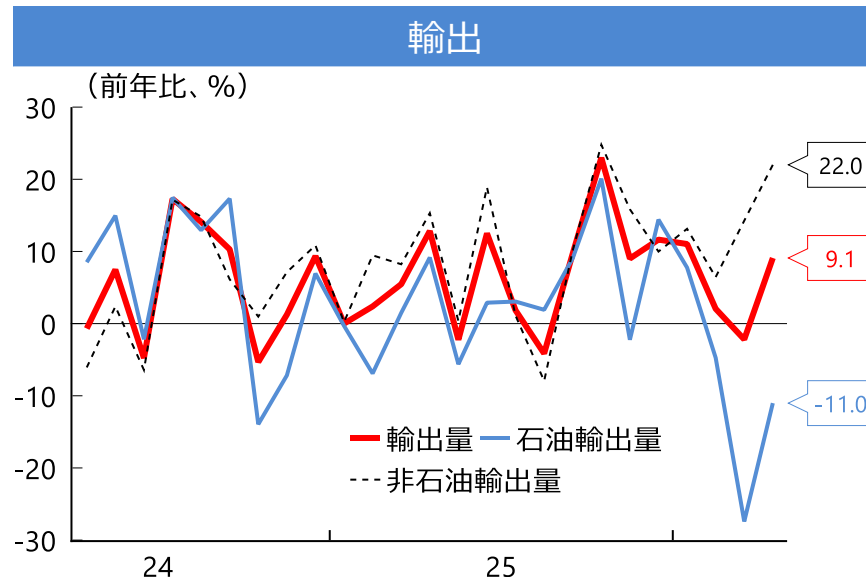
(注) 直近は5月。シンガポール購買・原料管理研究所の公表値。



(注) 直近は5/29日の週。破線は直近2回の政策決定タイミング。



(注) 直近は実質小売売上高が4月、自動車登録台数が5月。



(注) 直近は4月。再輸出を除いた地場輸出の実質輸出額。



インドネシア

■ PMIは50で停滞

5月の製造業PMIは50.0と、前月(49.1)から縮小ペースが鈍化し、景況感に変化は見られなかった。

■ BIは為替レート安定のため据え置き

5月の総合CPIは前年比+3.1%と、前月(同+2.4%)から再び加速。6月9日、インドネシア銀行(BI)は臨時会合を開き、緊急の利上げを決定(+25bps、5.25%→5.50%)。直近では5月20日に市場予想を上回る利上げを行っていた(+50bps、4.75%→5.25%)。今回の緊急利上げについて声明文では、「中東戦争による世界的な混乱の影響からルピア為替レートの安定化をさらに強化するとともに、2026年と2027年のインフレ率を目標範囲である2.5±1%内に維持するための予防措置」とし、為替レートの安定を強化した。

■ 消費は減少に転じる

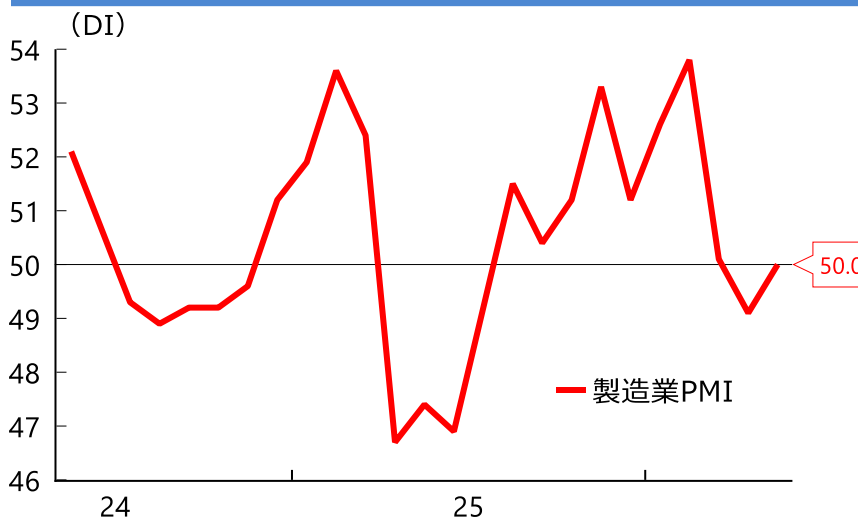
4月の小売売上高は前年比▲3.7%と、前月(同+3.4%)から減少に転じた。5月の中銀予測値は同▲3.2%と、引き続き減少見通し。

■ 輸出は増加に転じる

4月の輸出は前年比+22.0%と、前月(同▲3.1%)から増加に転じた。

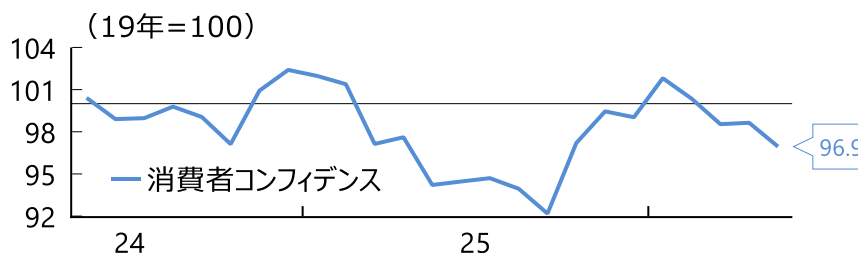
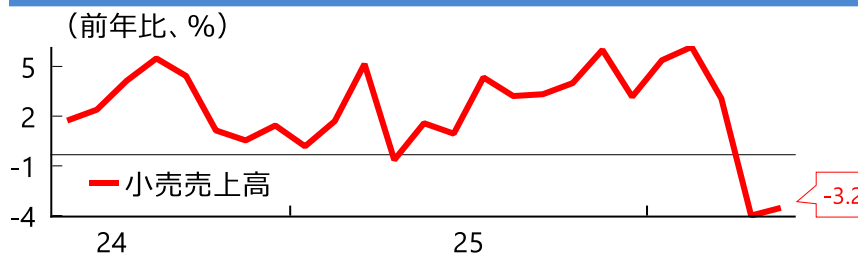
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



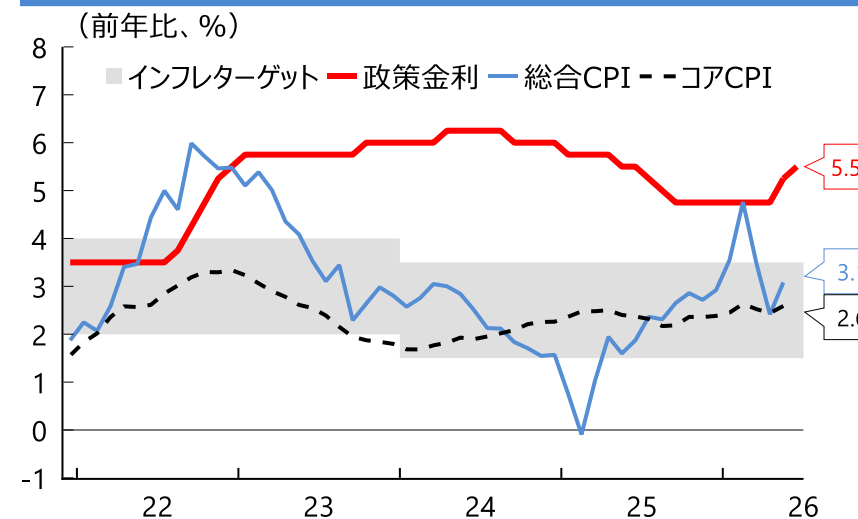
(注) 直近は5月。

国内消費



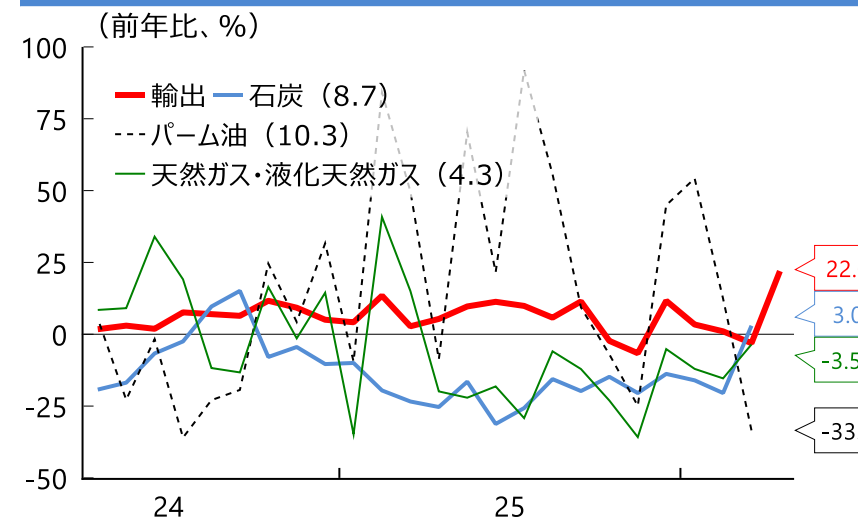
(注) 直近は5月。小売売上高の直近値は中銀予測値。

インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が6/15日、その他が5月。

輸出



(注) 直近は輸出が4月、その他は3月。()内は25年輸出額に占める割合。



タイ

■ PMIは引き続き拡大

5月の製造業PMIは52.6と、前月（52.7）に引き続き拡大。

■ インフレ率は高止まりが続く

5月の総合CPIは前年比+2.8%と、前月（同+2.9%）からわずかに鈍化したものの、高止まりが続いている。中東情勢の悪化に伴うエネルギー価格の上昇が、輸送費を中心に総合CPIを押し上げている。コアCPIは同+0.9%と、前月（同+0.8%）からわずかに加速。

■ 消費は増加幅が縮小

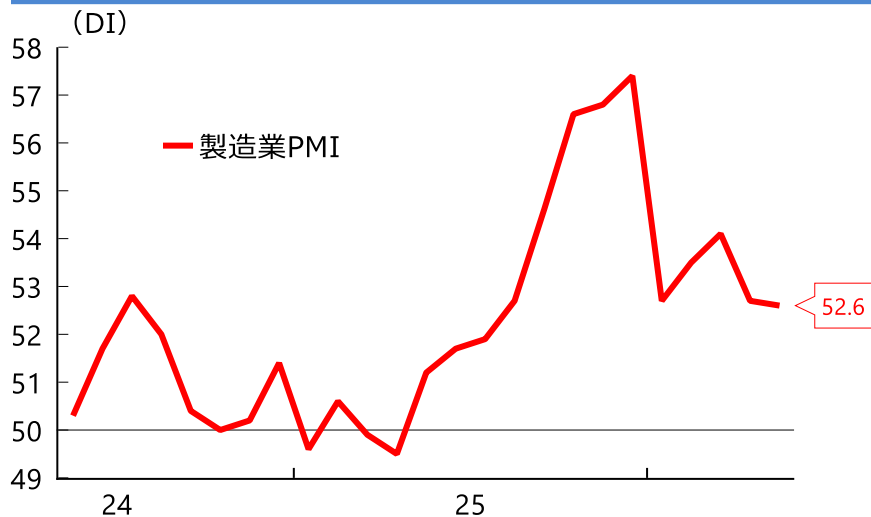
3月の小売売上高は前年比+21.2%と、前月（同+31.4%）からは増加幅が縮小。衣料品やパソコンが堅調に増加した一方、その他小売の減少が響いた。4月の自動車販売も同+2.5%と、前月（同+7.3%）からは増加幅が縮小。3月はバンコク国際モーターショーの開催もあり、販売台数が増加していた。

■ 観光客数は増加

5月単月は約235万人、前年比+3.5%と増加。中国人観光客が同+32.6%増加すると、ASEAN諸国が同+0.4%と増加に転じ、欧州が同▲0.4%と減少幅が縮小した。タイ中銀は、6月10日公表の金融政策レポートで、26年の外国人観光客数の見通しを前年並み（3,300万人）に下方修正。

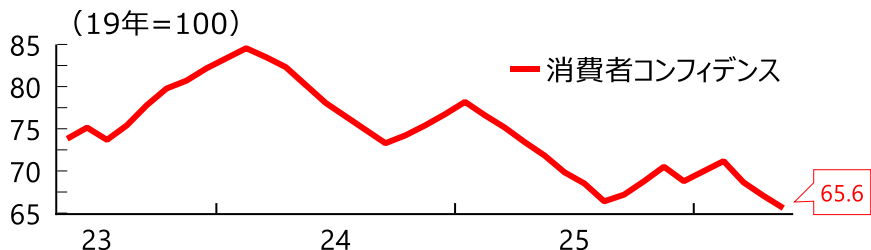
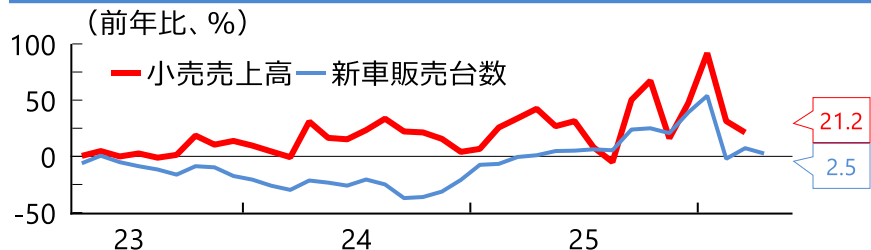
(出所) Macrobond, S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



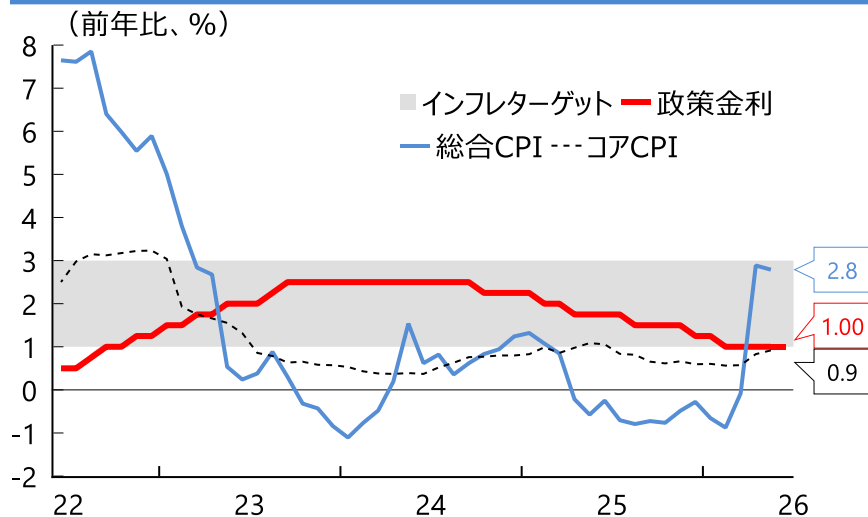
(注) 直近は5月。

国内消費



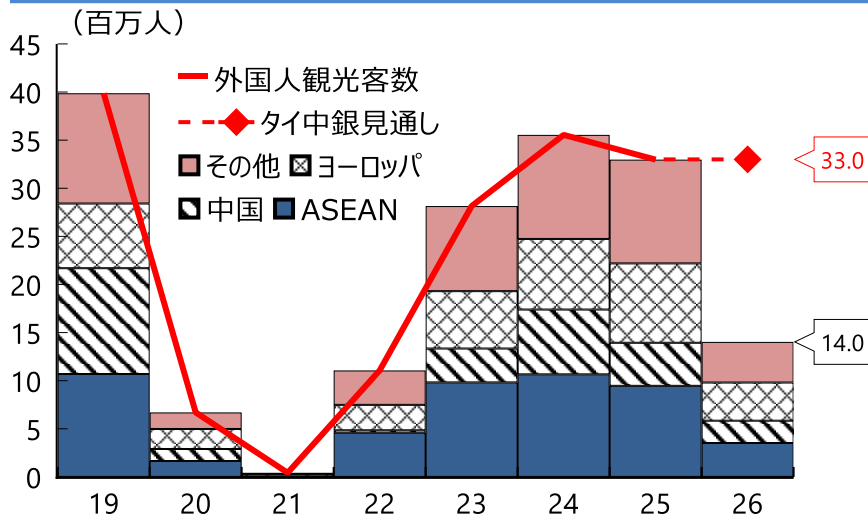
(注) 直近は小売売上高が3月、新車販売台数が4月、消費者コンフィデンスが5月。

インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が6/15日、その他が5月。

外国人観光客数



(注) 26年は5月時点実績。



フィリピン

■ PMIは拡大に転じる

5月の製造業PMIは50.8と、前月(48.3)から拡大に転じた。生産指数の拡大ペースが加速するもと、新規受注指数が再び拡大に転じ、ヘッドラインを押し上げた。

■ インフレ率は高止まりが続く

5月の総合CPIは前年比+6.8%と、前月(同+7.2%)から幾分鈍化したものの、高止まりが続いている。コメを中心に食料価格が上昇するもと、中東紛争を受けた燃料価格の上昇が加わり、総合CPIを押し上げている。

■ 新車販売台数は減少幅が拡大

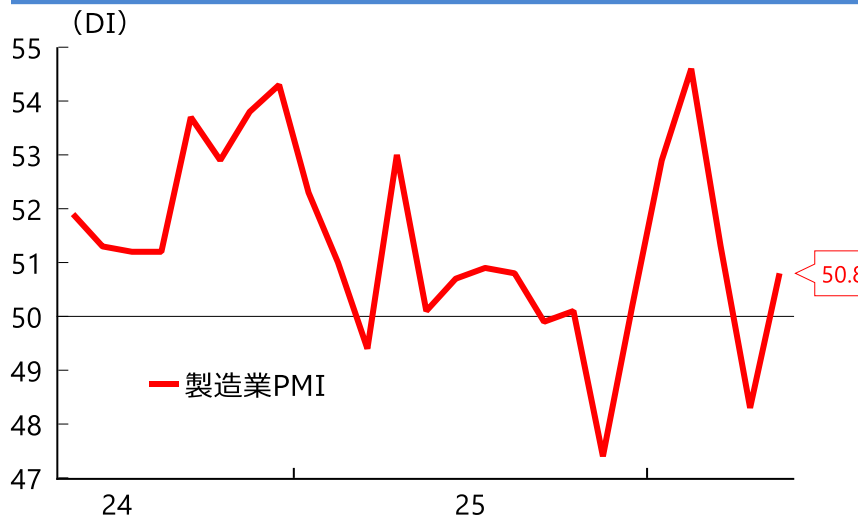
4月の新車販売台数は前年比▲18.9%と、前月(同▲10.4%)から減少幅が拡大。中東情勢の悪化を受けた燃料価格の上昇により、燃費の良いEVは販売台数を伸ばしたものの、市場の大半を商用車等の内燃機関車が敬遠され、新車販売台数を下押しした。

■ 輸出は増加幅が縮小

4月の輸出は前年比+6.3%と、前月(同+20.8%)から増加幅が縮小。主力製品の電子製品で、中東情勢の悪化に伴う燃料価格の上昇、航空ルートの変更等による出荷遅延が響き、輸出全体を下押しした。

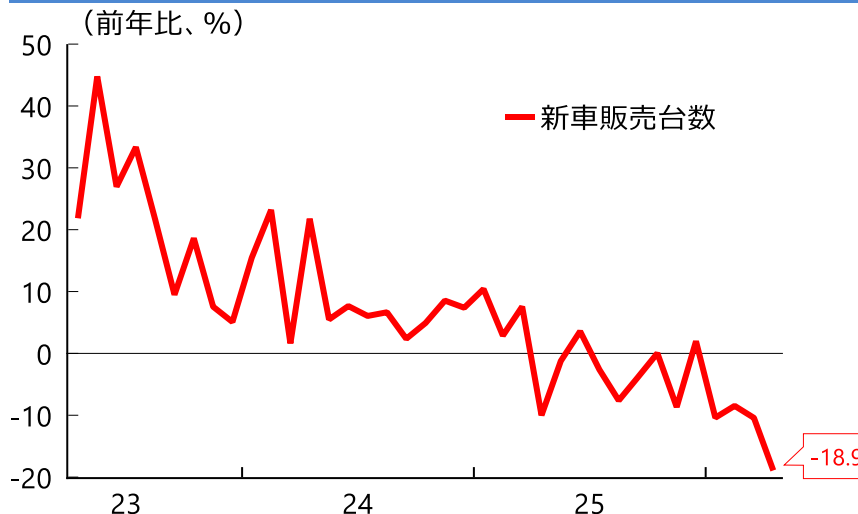
(出所) Macrobond, S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



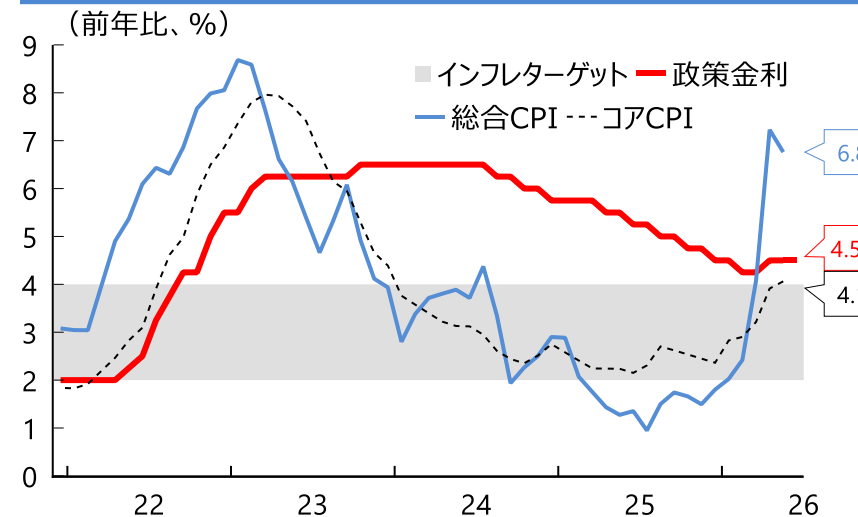
(注) 直近は5月。

国内消費



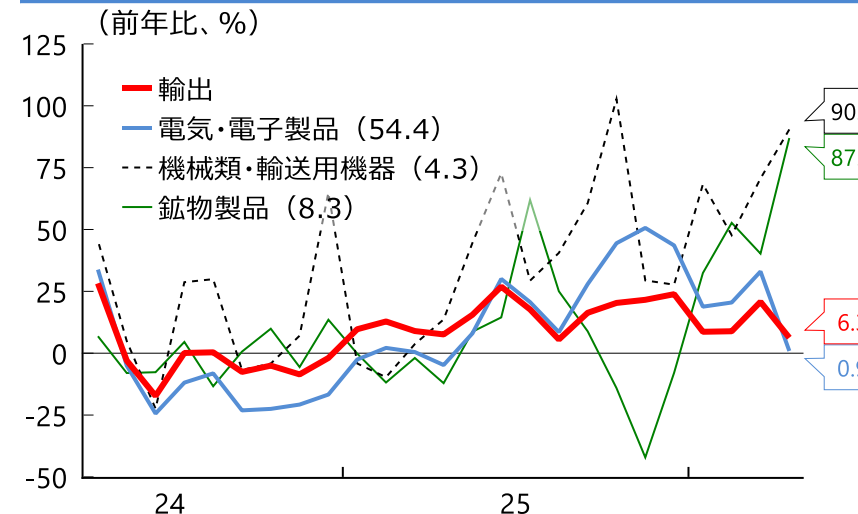
(注) 直近は4月。

インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が6/15日、その他が5月。

輸出



(注) 直近は4月。()内は25年輸出額に占める割合。



■ PMIは縮小に転じる

5月の製造業PMIは49.9と、前月（51.6）から縮小に転じた。新規受注指数、生産指数ともに縮小に転じ、ヘッドラインを押し下げた。

■ インフレ率は加速

4月の総合CPIは前年比+1.9%と、前月（同+1.7%）から加速。食品価格の伸びが再び加速するもと、中東紛争を受けた燃料価格の上昇が総合CPIを大きく押し上げた。コアCPIは同+2.0%と、前月（同+2.1%）からわずかに鈍化。

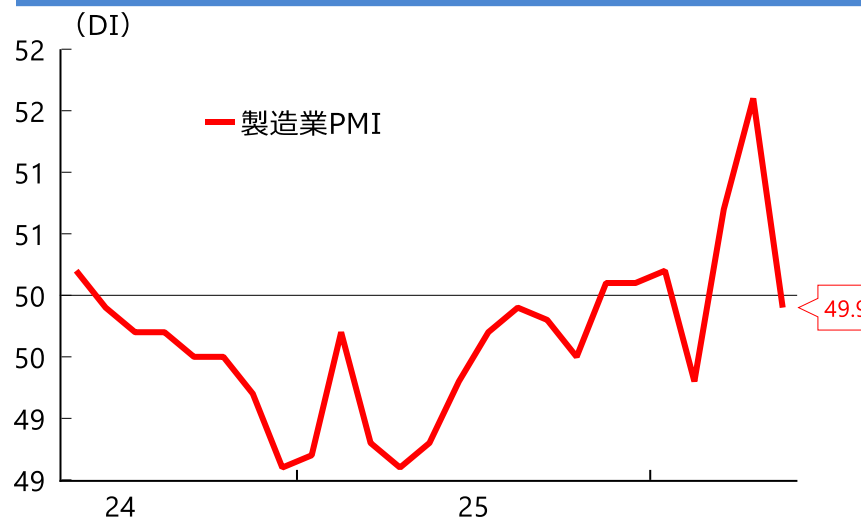
■ 消費は引き続き増加

4月の小売売上高は前年比+3.9%と、前月（同+5.2%）に続き増加。4月の新車販売台数は、祝祭日の連休が前年の4月上旬から今年は3月中旬へと前倒しになり、4月の操業・営業日数が実質的に増加したことで、同+16.7%と増加した。

■ 輸出は増加幅が拡大

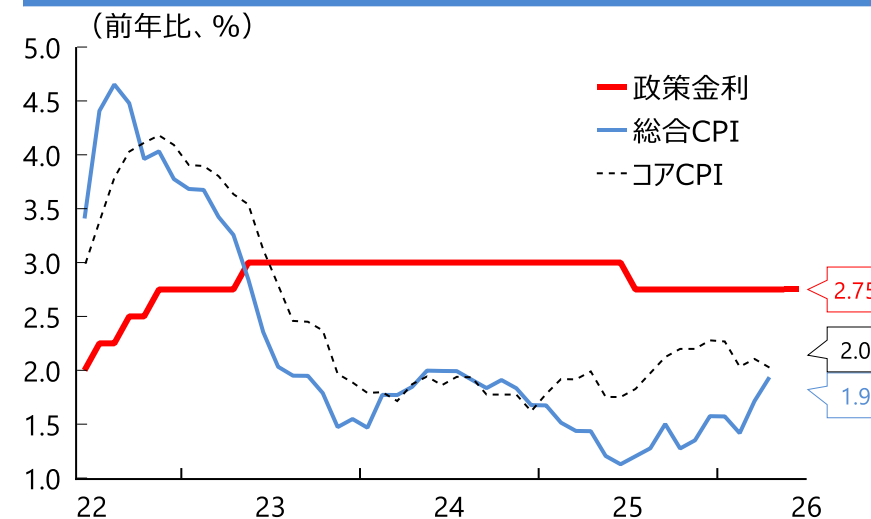
4月の輸出は前年比+36.9%と、前月（同+8.4%）から増加幅が拡大。半導体を中心とする機械類・電気機器の増加、輸出全体を牽引した。

PMI



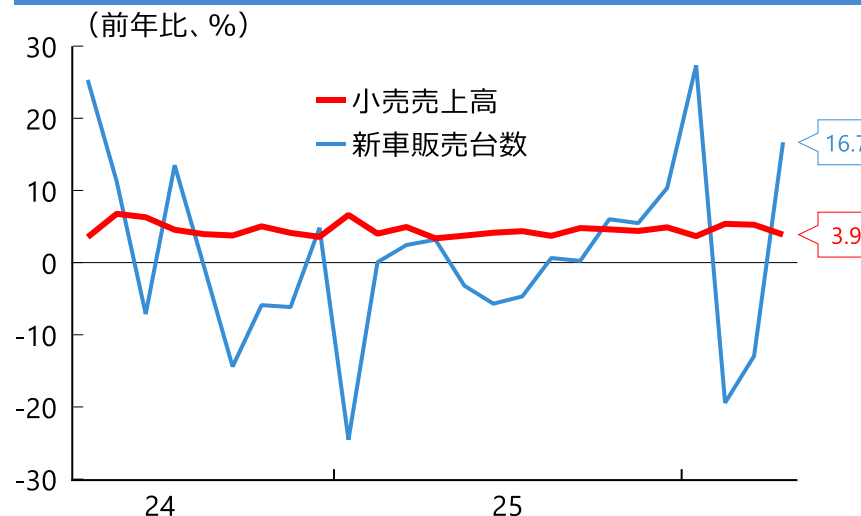
(注) 直近は5月。

インフレ率と政策金利



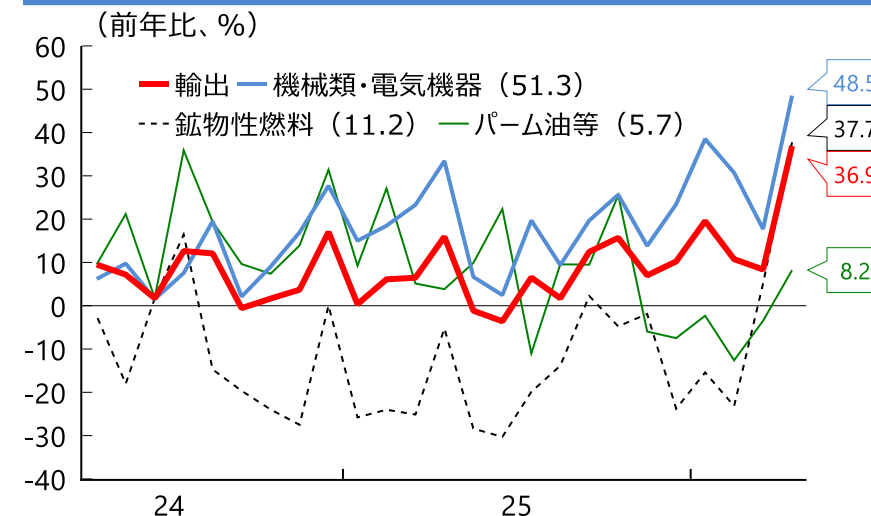
(注) 直近は政策金利が6/15日、その他が4月。

国内消費



(注) 直近は4月。

輸出



(注) 直近は4月。現地通貨建ての輸出額。()内は25年輸出額に占める割合。12



ベトナム

■ PMIは拡大ペースが加速

5月の製造業PMIは52.8と、前月(50.5)から拡大ペースが加速。生産指数の拡大ペースが加速するもと、新規受注指数が再び拡大に転じ、ヘッドラインを押し上げた。

■ インフレ率は加速

5月の総合CPIは前年比+5.6%と、前月(同+5.5%)からわずかに加速。食料価格が上昇するもと、中東紛争を受けた燃料価格の上昇により、高止まりが続いている。コアCPIも同+4.7%と、インフレ目標を上回り推移。

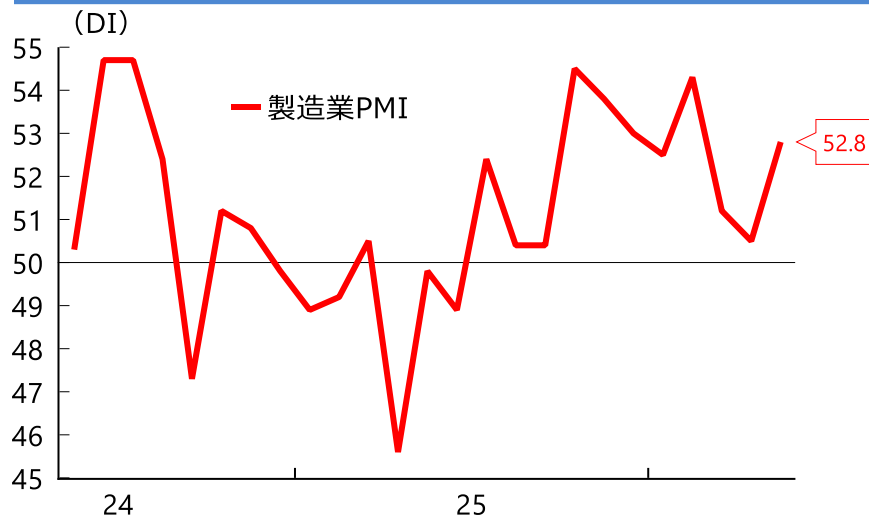
■ 消費は引き続き増加

4月の小売売上高は前年比+12.5%と、前月(同+12.4%)に続き増加。観光関連や宿泊・飲食サービスを中心に増加した。5月の当局予測値は同+13.3%と、さらに増加幅が拡大する見通し。5月の新車販売台数は同+6.5%と、前月(同+5.6%)に続き増加。

■ 輸出は引き続き増加

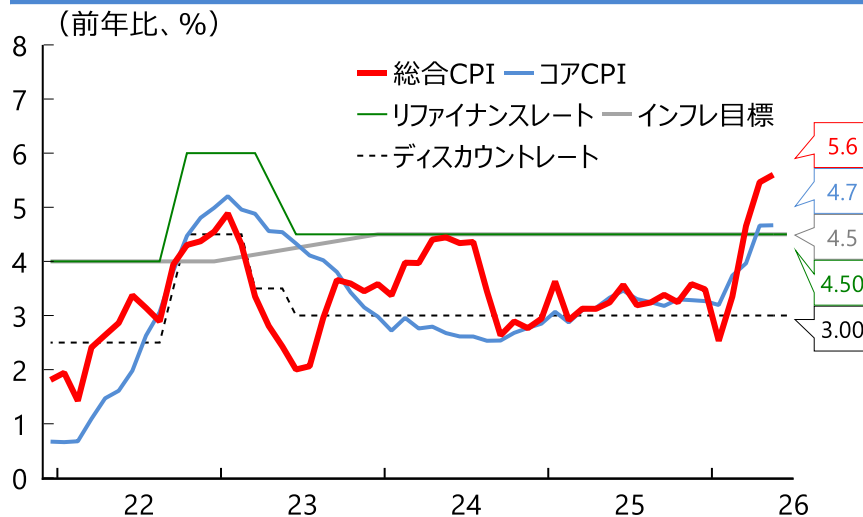
5月の輸出は前年比+22.2%と、前月(同+28.4%)に引き続き増加。電子製品や機械設備等を中心に輸出全体が増加した。

PMI



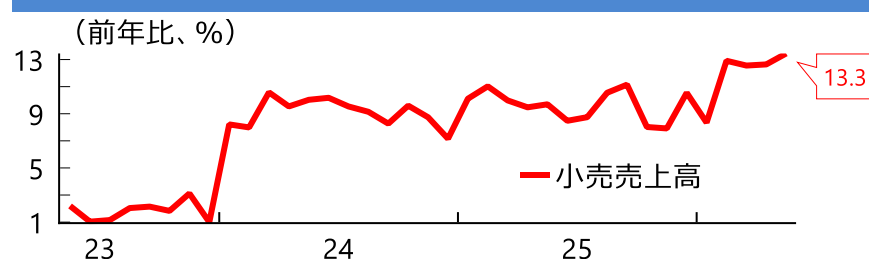
(注) 直近は5月。

インフレ率と政策金利

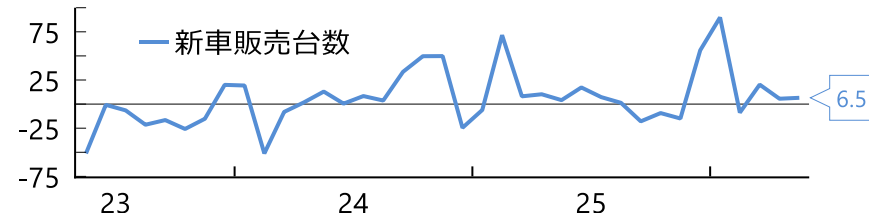


(注) 直近はリファイナンスレート、ディスカウントレートが6/15日、その他が5月。

国内消費

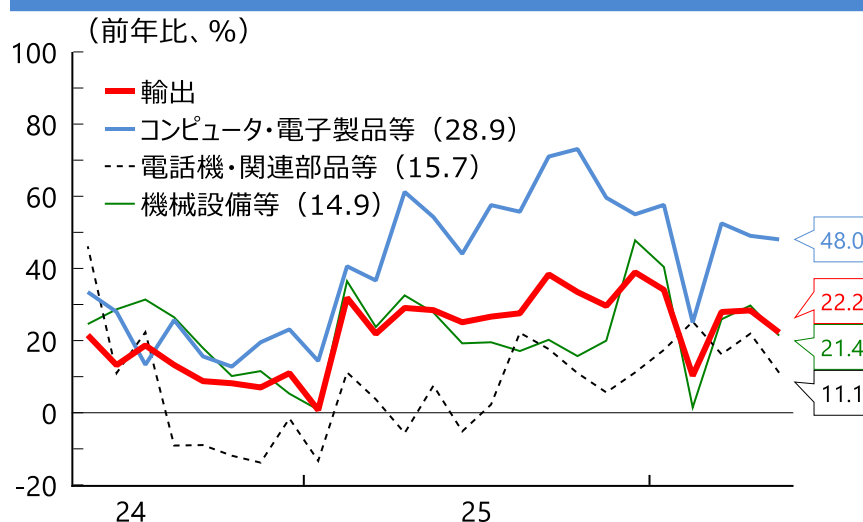


国内消費



(注) 直近は5月。小売売上高の直近値は当局予測値。

輸出



(注) 直近は5月。米ドル建ての輸出額。()内は25年輸出額に占める割合。



オーストラリア

PMIは縮小に転じる

5月の総合PMIは48.7と、前月（50.4）から縮小に転じた。サービス業PMIが48.7と縮小に転じるとともに、製造業PMIも50.7と、前月（51.3）から拡大ペースが鈍化。

インフレ率は物価抑制策で幾分鈍化

4月の総合CPIは前年比+4.2%と、前月（同+4.6%）から幾分鈍化。中東情勢の悪化による燃料価格上昇を受けて、連邦政府は4月から3か月間、燃油税を半減させる物価抑制策を実施、輸送費のプラス寄与が縮小し、総合CPIを押し下げた。ただ、依然として、総合CPI、コアCPIとともにインフレターゲットのレンジを上回って推移する状況が続いている。

消費は減少に転じる

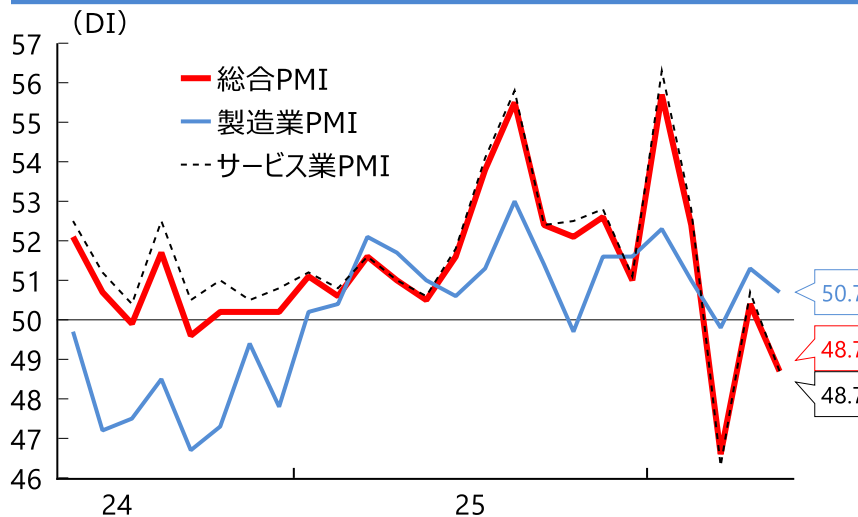
4月の家計支出は前期比▲1.1%と、前月（同+1.6%）から減少に転じた。長引く高インフレと高金利が家計の可処分所得を圧迫し、裁量的支出（娯楽や非必需品）を控える動きが月次ベースの減少につながった。

輸出は増加に転じる

4月の輸出は前期比+7.2%と、前月（同▲2.5%）から増加に転じた。エネルギー価格や一部金属資源の価格上昇が追い風となり、輸出額が増加。

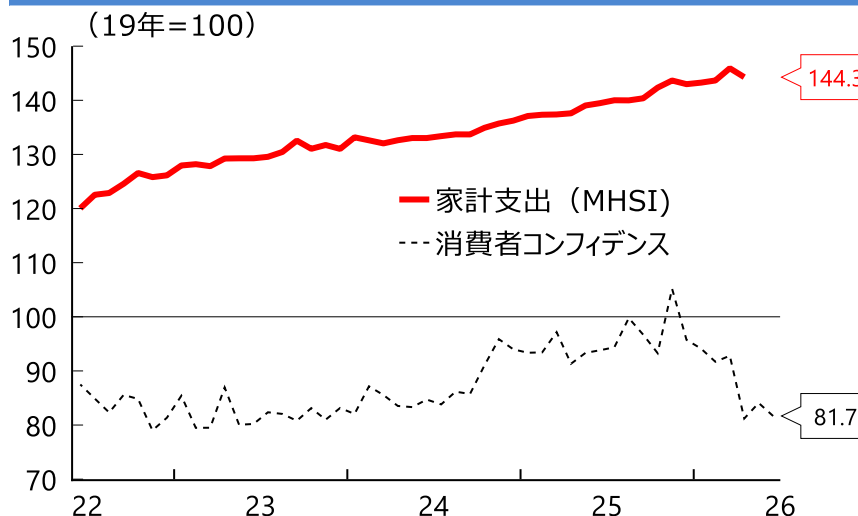
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

PMI



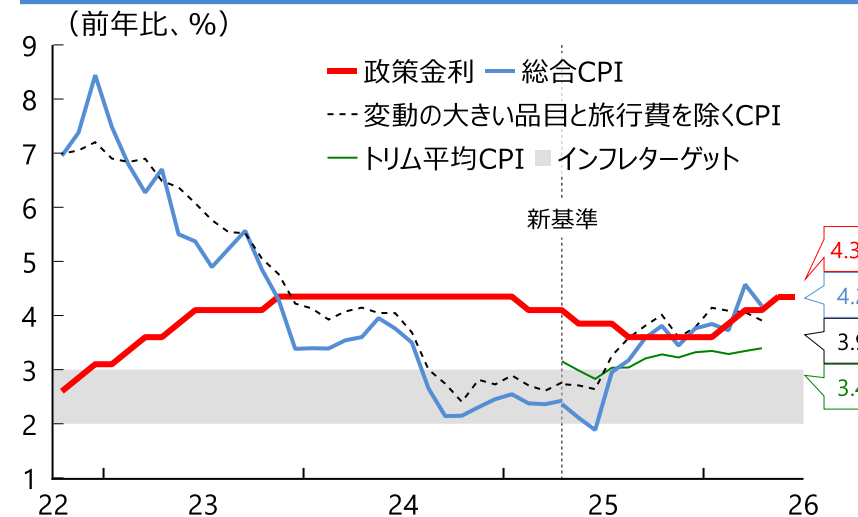
（注）直近は5月。

消費と住宅投資



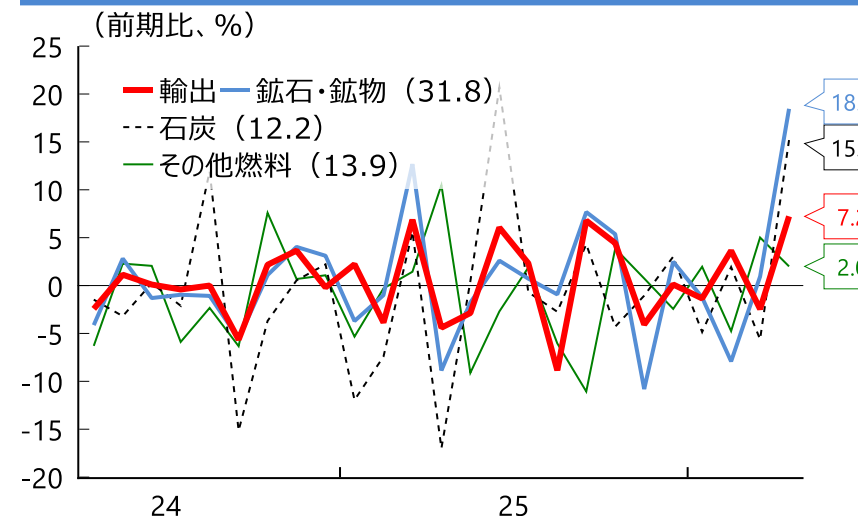
（注）直近は消費者コンフィデンスが6月、家計支出が4月。SA系列。

インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が6/15日、その他が4月。25/4月以降は新基準の月次CPI前年比。

輸出



（注）直近は4月。SA系列。（）内は25年輸出額に占める割合。



ニュージーランド

■ PMIは引き続き縮小

5月の総合PMIは48.0と、前月（48.5）に引き続き縮小。サービス業PMIの縮小ペースが加速するもと、製造業PMIも49.9と、前月（50.4）から縮小に転じ、総合PMIを押し下げた。

■ RBNZは予想通りの据え置き

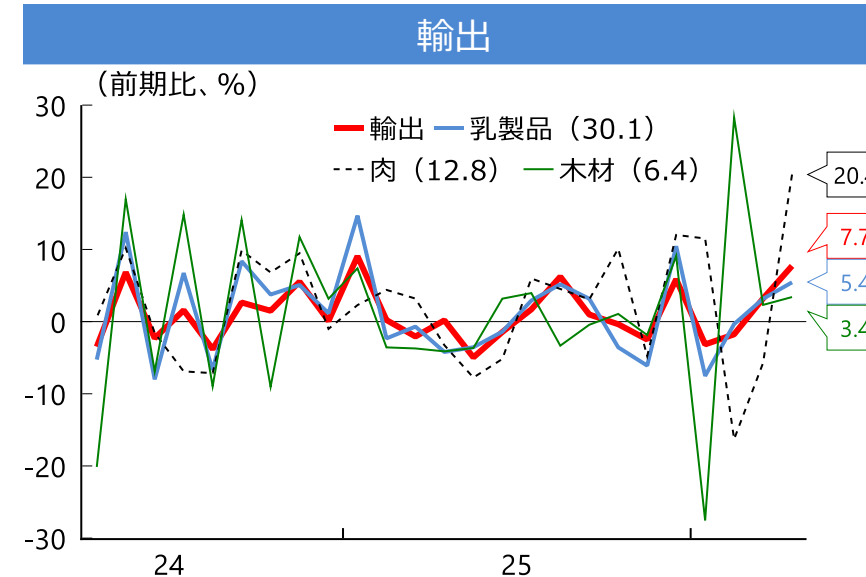
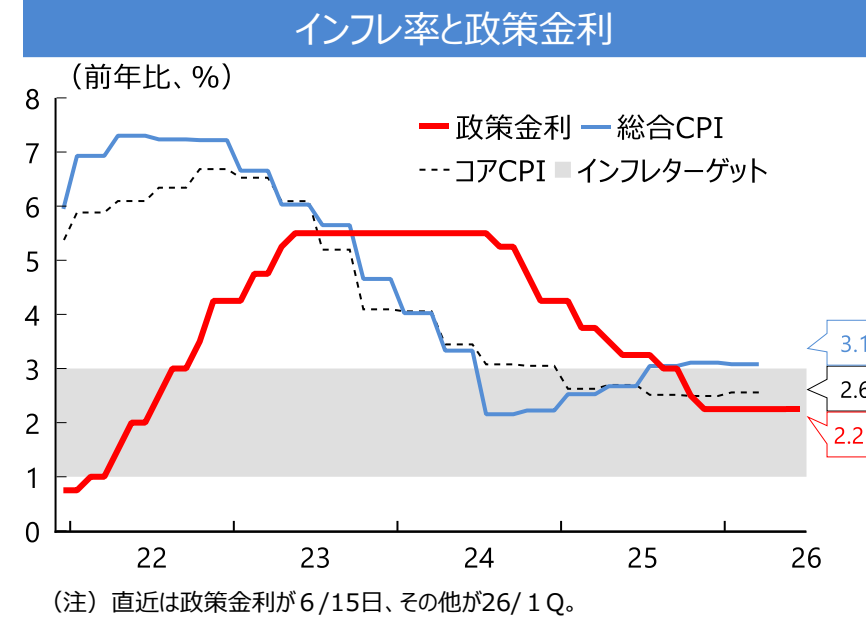
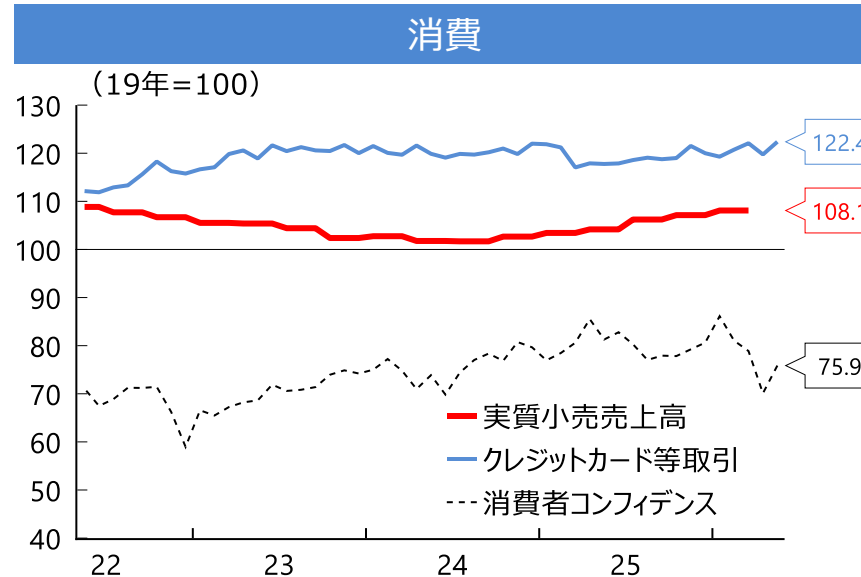
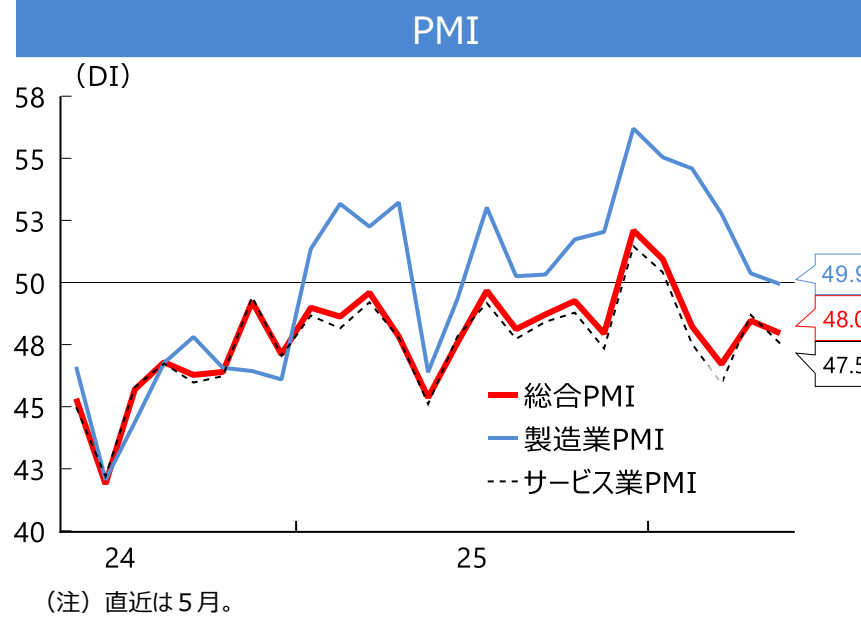
1～3月期の総合CPIは前年比+3.1%と、前期（同+3.1%）から横ばいで推移。5月27日、RBNZは政策金利の据え置きを決定（2.25%）。据え置きは市場予想通り。声明文では、現在のコアインフレ率、賃金上昇率、中長期的なインフレ期待は「インフレ率が中期的に目標の中間値である2%に戻るという見通しと整合的」であるとした。ただし、先行きは「総合的に判断すると、政策金利は2月の金融政策声明で想定されていたよりも早く、かつ大幅に引き上げる必要が生じる可能性が高い」とタカ派姿勢を示した。

■ 消費は引き続き増加

1～3月の小売売上高は前期比+0.9%と、前期（同+0.9%）に続き増加。

■ 輸出は引き続き増加

4月の輸出は前期比+7.7%と、前月（同+3.2%）から増加幅が拡大。食肉価格の上昇により輸出額が増加。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。